

ニホンナシ「幸水」の根域制限栽培で 早期多収が可能な二本主枝垣根仕立て法

ニホンナシ栽培は成園化までに長い期間を要し、初期収量が少ないことが課題となっている。石川県農業研究総合センターが新しく開発した高うね式根域制限による二本主枝垣根仕立ては、棚下主幹部に側枝を配置する樹形と密植により早期多収が期待できることから、この新栽培法の収量性と果実品質について紹介する。

☆ 技術の概要

1. 二本主枝垣根仕立ては、二本主枝仕立てを基本に棚下の主幹部分から左右合計6本の側枝を配した樹形である。大苗育成した2年生苗木を、遮根シートの上に堆肥等で土壌改良した用土600リットルの高うねに定植する。植栽間隔は列間5m、樹間2.5mで慣行栽培の2倍となる10aあたり80本植えの密植とする（[図1](#)）。

2. 新栽培法は定植2年目（4年生樹）から棚下側枝が結実し始め、定植4年目（6年生樹）には成園並みの3t/10a以上の収量が得られる。初期収量（4～6年生樹）は同じ樹齢の慣行栽培に

比べ2倍以上の収量で、また成園並みの収量に達する樹齢は慣行栽培に比べ3年早い（[図2](#)）。

3. 棚上果実の果実品質は、果重や糖度など慣行栽培とほぼ同等である。棚下果実は糖度がやや低いものの12%以上で問題のないレベルである。

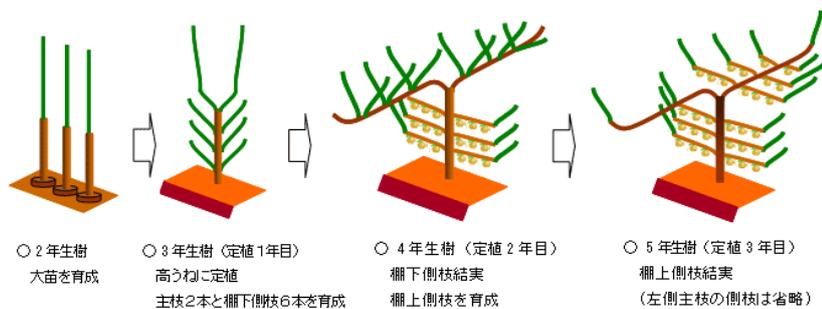


図1 二本主枝垣根仕立ての育成法

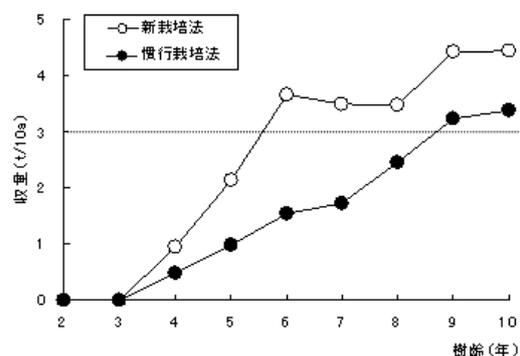


図2 新栽培法の収量推移

☆ 活用面での留意点

1. 棚下側枝は摘果などの管理作業が目前ででき、棚上の作業に比べて肩や首への負担も軽減されることから、成園並みの収量に達した後も年に2本ずつ計画的に更新しながら維持管理する。この栽培法のマニュアルを作成し <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/noken/iffnet/kaju/nashisaibai.html> で公開している。

2. 詳細については、石川県農業総合研究センター・育種栽培研究部・園芸栽培グループ（電話：076-257-6911、電子メール：nk-kika@pref.ishikawa.lg.jp）にお問合せください。

（農研機構果樹研究所 研究調整役 別所英男）